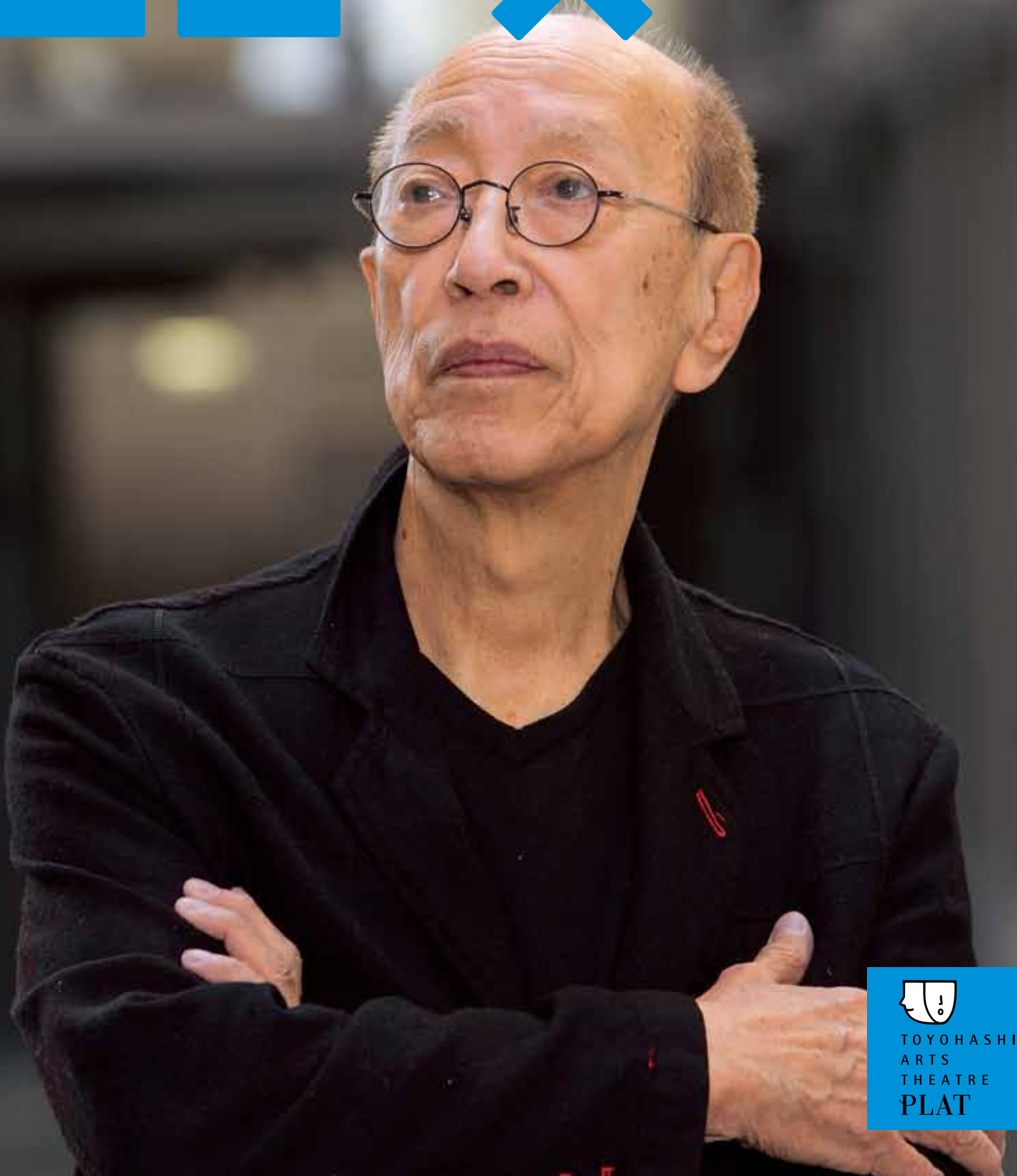


公益財団法人豊橋文化振興財団情報誌

2014年5月—6月

プラット ニュース

vol.7



TOYOHASHI
ARTS
THEATRE
PLAT

12月20日—21日 PLAT主ホール

さいたまゴールド・シアター

『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』

芸術文化プロデューサー

蜷川幸雄 × 中島晴美

人間がいて、人間が動いて、
空間を創る。

芝居がやりたくて仕方ない



蜷川幸雄

昨年、ポスター&写真展『蜷川舞台の瞬間~ギリシャ悲劇×シェイクスピア』と『ヘンリー四世』の上演で、PLATに鮮烈な演劇との出会いを贈ってくれた演出家・蜷川幸雄さん。今年は、同時期にパリで上演していたさいたまゴールド・シアター『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』（清水邦夫作）が、12月にやってきます。ゴールド・シアターは、現在63歳から88歳までの41名の演劇集団。「年齢を重ねた人々が、その個人史をベースに、身体表現という方法によって新しい自分に出会うことが可能ではないか」というのが、蜷川さんが高齢者の演劇集団を創ろうと思った動機といます。まさに、演劇は人。そして人から人に伝わるもの。蜷川さんの演劇にこめる思いはPLATと同じです。

中島●昨年3月に『ヘンリー四世』の初顔合わせで、稽古場にお邪魔しました。そのとき「死んでもいいから芝居をやりたい」とおっしゃっていたのが、今でも思い出すと涙が出るくらい印象に残っています。狭心症で入院・手術して退院された直後のことでした。

蜷川●ときどき僕は循環器系の大きな病気をするんだけど、そのたびに生き延びているんですね。昨年はもう齢も齢だったから、自分は何かがやりたいたって、芝居をやりたいたって思っただけが強くなって。具体的な人間がいたり、その人間が動いたり、空間を創っていくことが面白い。あらためて演劇が好きだなーって思って、それをやりたくて仕方なかった。それで、ベッドの上で空中に文字を書いてみた

りして、どうも頭は大丈夫だな、じゃあ、あとは身体がついてくればいいと。

中島●そのあと、豊橋公演中の5月にはパリ公演に行かれたんですね。ゴールドシアターで。それもすごいと思った。

蜷川●みんな、散歩行っちゃったり。パリを楽しんでましたよ。それに彼ら、演じるのが好きで、稽古がないと「早くやれ、早くやれ」。病気があっても治っちゃう。現実、歩けない人が歩けるようになったからね。

日本人の言語で創った芝居を海外で

中島●ヨーロッパ公演は、そろそろ30年続いているのでは？

蜷川●1960年代に清水とか僕とかが芝居を始めたとき、外国から来たのをみんな絶賛するな、でも、自分で作って見たら俺のほうが面白いやとかかと思いつつやっていたわけですね。その後、ギリシャ悲劇やったって、アングラやって商業演劇やっても何の評判にもならなくて嘆いていたら、プロデューサーが「外国へ行こう、外国へ」って。そういう流れでオランダ・アムステルダム市の市立劇場で『NINAGAWA マクベス』をやって、イギリスのエジンバラフェスティバルにも行った。1985年ですね。それからロンドンのナショナルシアターなど各地で上演するうち、「面白い。オリジナリティーがある」って評価されるようになった。ただ、7、8年前からイギリス人と一緒に仕事する、英語の芝居をするっていうのは一切やめています。ヨーロッパにはそこから先は、アジアの人間にはどうしても入り込めないなっていう、何かの壁があるんです。差別ではなく、それで、やるならシェイクスピアであっても日本人の言語で作ったものを持っていこうと決めたんです。

でも、パリは劇評家もあまり来ないぐらいだったんですね。それが、今回の「鴉」では「なぜ、我々は蜷川の作品を知らなかったのか」というぐらいに受け入れられた。理由は、僕もわからないですね。

実は、『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』は先にパリ公演の話があって、やろうと思ったんです。初演は71年かな。清水と喫茶店でお互いに何を考えているかって話をして「裁く裁かれるってことかな」と言った記憶がある。清水の群集劇をもう一度きちんとやりたいっていう思いはずっとあってね。フランスは5月革命(1968年)があったから、「鴉」なら共通するものがあるんじゃないかと思ったんですね。



齢を重ねた生活者は舞台上でも生活する

中島●今年も、PLATの前に海外で公演をするという話を聞いています。

蜷川●そのぐらい評価されたのは予想外でした。ただ、稽古をやっている、若い人が老人を演めるのにはない不思議なリズムで入ってきたりするし、若手のネクスト・シアターが混じって入れ替わるところもうまく行って、面白いかなどは思っていた。ゴールドの人たちは、実際に生活をしている生活者だから、舞台の上で生活する、日常性の再現っていうのがみんな上手なんです。そこで、70年代の初演とは大きく違ってきた。

中島●この戯曲を声に出して読んでみたら、すごく歯切れがよくて、音が耳からスツと入ってくるんですね。そして、制服を着ている裁判官が実は裁かれていたり、

裁く者と裁かれる者、どっちがどっちかわからなくなるような逆転。私は、アートシアター新宿文化の初演を観ているんですが、当時、頭デッカチに考えていたことが、少し身についてきたかなという気持ちになりました。

蜷川●世代によっては逆に、自分の祖父母が舞台の上でこんなことをやるんだということになりますよね。一方で、彼女たちはこんなにも屈辱的な時代を延々と生きてきたのかと、かつての日本の女性全体の歴史が舞台に反映されると、「老婆」自身が持つ日本における位置ってものが見えてくるかなと。そういう意味では、世界だけでなく、国内の地域性も超えるんじゃないか。都会の女だけじゃなくてね。豊橋のおじちゃんおばちゃんの間僚が代わりに出て喋ってくれているって、喜んで観てくれる感じになるといいなと思っています。

彩の国さいたま芸術劇場もそうだけど、地方で、ある文化を育てていくのはけっこう難しく、どうしても判断基準がテレビになるんですね。芝居は家にいて観られるものじゃないから。でも、観に来てみたら思いがけず面白かったっていうのは大事ですよ。

中島●そこから始まるんですね。蜷川さんの漲るエネルギーを、PLATという劇場は吸収していますよ。『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』、楽しみにしています。

【にながわゆきお】1935年埼玉県生まれ。彩の国さいたま芸術劇場芸術監督。1969年『真情あふる軽薄さ』で演出家デビュー。74年『ロミオとジュリエット』で大劇場の演出を手掛け、以後、日本を代表する演出家として話題作を次々と世に送り出している。83年『王女メディア』のヨーロッパ公演を皮切りに海外へも進出。各国で高い評価を得ている。2006年彩の国さいたま芸術劇場芸術監督に就任し、55歳以上を対象とした「さいたまゴールドシアター」を創設。09年には若手俳優育成プロジェクト「さいたまネクストシアター」を始動。彩の国シェイクスピア・シリーズでは、シェイクスピア全作品上演計画を敢行中。2010年文化勲章受章。

撮影:谷古宇正彦

速報

12月20日—21日
PLAT主ホール

パリ公演の成果とともに、
蜷川演劇が再登場

『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』

●作=清水邦夫 ●演出=蜷川幸雄
●出演=さいたまゴールドシアター
さいたまネクストシアター

「孫」を裁く法廷に婆の一群がなだれこむ。そして…「墮落だねえ。目的なんか考えるとところから墮落が始まるんだよ」

さあ、2年目のPLATへ。

この4月、PLATは2年目の春を迎えます。皆さまとともに劇場に息を吹き込む初年度があって、「いま」と「これから」がある。私たちが迎ってきた1年間で、皆さまと共有したい。そんな思いを込めて、オープン1周年記念特集をお送りします。

アーティストと観客が育てた1年間。 劇場の、「ありがとう」の声が聞こえる。



中島晴美 [芸術文化プロデューサー]

『父よ!』カーテンコール

それは、2011年に始まった

今年2年目を迎えたPLAT。その胎動は2011年、オープンの2年前に始まりました。それが、現芸術文化アドバイザーの平田満による小劇場演劇『ゆすり』と『罪』の連続公演。平田は、「小劇場の魅力が豊橋の皆さんに体感してほしい」という思いから市内を歩き回り、豊橋駅前文化ホールという「劇場」を発見したのです。照明は？ 客席の配置は？ といった課題をアイデアと手作り作業でクリア。かぶりつきの座布団席をご記憶の方も多いかと思います。芸術文化アドバイザー着任にあたって平田は、「『はい、劇場ができました。はい、来てください』では、自分たちの文化にならないですね。その点、豊橋に住んで生活していくなかで新しい劇場、表現の拠点ができるといのは、やはり『一緒に創る』ことなんだと思う」（『ARTSPACE プレ・アクトvol.1』）と語っていますが、この思いは、そのまま変幻自在のアートスペースという空間に結実。それは、PLAT完全プロデュースの『父よ!』が、連続5



2011とよはし演劇工房『罪』より

公演すべてが完売御礼となったことに象徴的に表れていると思います。今私は、豊橋初の小劇場演劇の実験は、PLATを市民の皆さまとともに育てる原点となったと実感しています。

豊橋だからできることを 開き続ける

平田だけではありません。同じ年には、昨年『劇場へ行こう!』を私たちに贈ってくれた宮川彬良さんの『アキラ塾』第1回が豊橋市民文化会館でスタート。さらに、同じく昨年『ショージング』で私たちを魅了するステージを創りあげた平山素子さんの『平山素子ムーブメントワークショップ マスターコース』がこども未来館「ここにこ」で始まり、ゴールデンウィークには、豊橋初の大道芸人によるアートフェスティバルも開かれます。いずれも翌12年も継続して行われ、さらに、この年、劇作家で演出家の永井愛さんは「リーディングワークショップ」と『こんばんは、父さん』を経て、PLATでの『兄帰る』上演に至っています。また、建築・設計を担当した香山壽夫建築研究所の方々は、あくまでも本物のレンガにこだわった外壁をはじめ、ここに立ち寄るだけで、なにか懐かしさに似た感覚を呼び起こすような、日々の生活と芸術とが地続きになる劇場を実現してくれています。主ホールに、アートスペースに、創作魂を刺激されたというアーティストたちも少なくありません。密やかに育てられてきた熱意は、オープニング記念式典で全面開花。即興演奏で私たちを興奮の渦に巻き込んでくれた小曾根さんは、「客



中島晴美

席への音の響きを確かめようと2階席で『三番叟』と『棒縛』を観るうちにその芸術性と客席の熱気に包まれ、曲想が浮かんできた」と言います。5月に主ホールで高座を務めた立川志の輔さんも、やはり、自ら2階席に上がって、観客に一番いい見え方となる屏風の位置や座布団の高さを模索してくださいました。さらに、手で客席に花道を作るべく猛練習を重ねた劇場スタッフ、ロビーを、演劇の休憩時間をより楽しい空間にするためにさまざまなメニューを考える「カフェ・こすたりか」のスタッフ、そしてもちろん、劇場を熱い興奮で包んでくれるお客さまたち。PLATでお客さまと時間と空間をともにし、豊橋に足場を置き、PLATで稽古し、PLATで作品を練り、豊橋から発信する。その足場を、たくさんの劇作家、演出家、音楽家、舞踊家、創作者、表現者とともに築く貴重な1年間でした。「劇場のおおもとにあるのは『ひと』であり、『喜び』」という平田の思いが、すべての人々に伝わり、それがPLATを育ててきたのだと、実感します。



『劇場へ行こう!』より

でも、PLATは、これからが本番です。今、朝夕には、PLATの前を高校生が自転車で通り抜け、昼にはロビーでくつろいだり待ち合わせしたりする人々の姿があります。渥美線のプラットホームは、私たちの旅情を駆り立て、水上ビルや飲食街は、街に息づく劇場としての未来を思い描かせてくれる。一方で、東海道新幹線「ひかり」が停車するという地の利は、東京から大阪から、全国から、アートに出会いたい人々が集まる可能性を秘めています。豊橋だからできること。今年は、さらに一歩、大きく踏み出します。

ともに創る〜PLAT発アートの軌跡を辿る。

主ホール、アートスペース、創造活動室、交流スクエア、そして、オープンカウンターのチケット窓口と事務室。1年たってそのすべてが呼吸し、皆さまの手によって名付けられたPLATの4文字も、すっかり「穂の国とよはし芸術劇場」の愛称として馴染んでいます。そこで、2期目のイメージを皆さまとともに育てるべく、この1年を、①主ホール公演②とよはし演劇工房③プロと市民の共創④街と劇場の4つの視点から振り返り、2期目へと繋げていきたいと思ひます。



主ホール公演 シェイクスピアに松竹大歌舞伎。 幸運に恵まれるPLAT

オープニング式典 小曽根真「弾き初め」より

俳優の小さな溜息も表情がとらえられる客席、観客の心の動きがダイレクトに伝わるステージ。主ホールは、そんな空間にこだわって設計されました。形になるにしたがって豊橋を包んだワクワク感は、ついに4月30日、オープニング記念式典での「万作の会」による「三番叟」、小曽根真さんによる「弾き初め」で幕を開けます。「PLATは幸運に恵まれている」と、芸術文化プロデューサー中島は言います。というのも、6月の蜷川幸雄演出のシェイクスピア『ヘンリー四世』、7月の松竹大歌舞伎『市川猿之助襲名披露』と、日本中が注目する演目が、まるでPLATオープンにあわせてかのように実現したからです。シェイクスピアも歌舞伎もともに17世紀に花開いた、いわば同時代演劇。前者では、客席と舞台という空間も、上演中と休憩中という時間も超えて、主ホールのすべてをステージとし、後者では、演じる側も観る側も本花道の力を体験させてくれました。さらに、10月バーナードショー原作の『ジャンヌ』は、『ヘンリー四世』に続く歴史物語でもある。偶然とはいえ、一つの大きな流れがここPLATを包んでくれたことは、まさに幸運としかいいようがありません。一方で、春の「志の輔独演会」、秋の風間杜夫『寄席日和』と、日本の芸術を堪能し、新国立劇場ダンス公演の代表作となる作品を数々生み出してきた平山素子の『トリップトリプティック』で現代舞踊に会い、二兎社『兄帰る』で、今生きている私たちの現実を深く見つめて切り取る――。『おそろべき親たち』もまた、私たちが見ないできた何かを思わず覗き込むスリリングな世界をくれました。

今や、テレビの地上波はもちろん、BSやCS、あるいはDVD、インターネットで気軽にさまざまな作品を観られる時代。でも、ライブの劇場は、その場をともにする俳優と観客たちが創る宇宙です。ちょっとしたアクシデントも、そこにいる者だけが共有する体験。なかなかチケットが取れないというお叱りもいただき恐縮することもしばしばですが、立川志の輔さんの「観劇は、チケットが取れた喜びから始まる」（「プラットニュース」2号）との言葉に励まされ、その喜びをできるだけ多くの皆さまとともにしたいと考えています。主ホール2期目も、驚きがいっぱい。どうぞ、ご期待ください。



『ヘンリー四世』より 写真中央:松坂桃李/右:吉田鋼太郎 ©渡部孝弘

▶ 2013年度 主な公演

高座開き『立川志の輔独演会』
2013年5月3日

コンドルズ『GRANDSLAM』
2013年5月5日

彩の国シェイクスピア・シリーズ第27弾
『ヘンリー四世』
2013年5月24日―26日 ● 演出＝蜷川幸雄
● 出演＝吉田鋼太郎／松坂桃李／木場勝己 他

平山素子フランス印象派ダンス『Trip Triptych』
2013年6月15日

松竹大歌舞伎
『市川亀治郎改め四代目市川猿之助襲名披露』
2013年7月18日

二兎社『兄帰る』
2013年9月7日 ● 作・演出＝永井 愛
● 出演＝鶴見辰吾／草刈民代／堀部圭亮 他

『ジャンヌ―ノーベル賞作家が暴く聖女ジャンヌ・ダルクの真実―』
2013年10月5日 ● 演出＝鶴山 仁
● 出演＝笹本玲奈／伊礼彼方／村井國夫 他

風間杜夫『寄席日和』
2013年11月22日

『おそろべき親たち』
2013年3月21日 ● 演出＝熊林弘高
● 出演＝佐藤オリエ／中嶋しゅう／麻実れい
満島真之介／中嶋朋子

そして、2014年度
芸術文化アドバイザー平田 満も
ついに主ホールへ登場
[2014年度 主な主ホール公演]

『THE BIG FELLAH』

● 日時＝2014年6月28日―29日
● 作＝リチャード・ピーン ● 翻訳＝小田島恒志
● 演出＝森新太郎
● 出演＝内野聖陽／浦井健治／成河 他

『松竹大歌舞伎』

中村歌昇改め三代目中村又五郎襲名披露
中村種太郎改め四代目中村歌昇襲名披露
● 日時＝2014年7月20日
● 演目＝「角力場」「口上」「傾城反魂香」
● 出演＝中村吉右衛門／中村又五郎／中村歌昇 他

ミュージカル『王様と私』

● 日時＝2014年8月24日―25日
● 出演＝松平 健／紫吹 淳／はいだしょうこ 他

二兎社『鷗外の怪談』

● 日時＝2014年10月29日
● 作・演出＝永井 愛
● 出演＝金田明夫／水崎綾女／内田朝陽／若松武史 他

『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』

● 日時＝2014年12月20日―21日
● 作＝清水邦夫 ● 演出＝蜷川幸雄
● 出演＝さいたまゴールド・シアター
さいたまネクスト・シアター

『海をゆく者』

● 日時＝2015年1月10日―11日
● 作＝コナー・マクファーソン
● 翻訳＝小田島恒志 ● 演出＝栗山民也
● 出演＝小日向文世／吉田鋼太郎／浅野和之
大谷亮介／平田 満



『失望のむこうがわ』より



とよはし演劇工房 平田 満が贈る 小劇場の醍醐味

「PLATに小劇場空間・アールスペースができる、こんなに嬉しいことはない、小劇場演劇の魅力を取って伝えたい」と、開館前の2011年から平田満が始めたのがとよはし演劇工房です。これまで上演した5作品は、青木豪、蓬莱竜太、前田司郎、田村孝裕、三浦大輔と、いずれも今や日本演劇界の第一線で活躍する若手劇作家・演出家に平田自身が声をかけ、ともに作品を創りあげてきたもの。ベテラン役者陣と、世代の異なる演出家が織りなす世界は興味深く、また、各公演のポストトークで会場からの質問に気軽に答えるやりとりがあるのは豊橋ならではのシーンといえそうです。

とくに、アールスペースのこけら落とし公演『父よ!』は、演出、役者、スタッフ陣が2週間豊橋に滞在稽古して創りあげた、文字通り「豊橋発」演劇。役者陣にはのんほいパークまで行った方も! 「この街で演じて、ここに住む方に観てもらおう」との実感が、とても新鮮だったそうです。また、初年度最後を飾った『失望のむこうがわ』は、夫婦と、そこに割り込む青年の物語。男性、女性、子ども世代、観る人それぞれの胸のなかで、自分の物語が再構築されたのではないのでしょうか。

2011年度・2012年度

『ゆすり』

2011年7月30日—31日
●作・演出＝青木豪
●出演＝平田満／大谷亮介／井上加奈子

『罪』

2011年9月23日—24日
●作・演出＝蓬莱竜太[モダンスイマーズ]
●出演＝平田満／占部房子／黒田大輔／井上加奈子

『家の内臓』

2012年5月4日—5日
●作・演出＝前田司郎[五反田団]
●出演＝平田満／小林美江／西園泰博
橋本和加子／井上加奈子

2013年度

『父よ!』

2013年6月12日—16日
●作・演出＝田村孝裕[ONEOR8]
●出演＝平田満／ベンガル／徳井優
花王おさむ／井上加奈子

『失望のむこうがわ』

2014年2月28日—3月2日
●作・演出＝三浦大輔[ポツドール]
●出演＝平田満／井上加奈子／平原テツ[ハイバイ]

■そのほかアールスペース上演作品

あいちトリエンナーレ2013「ままごと『日本の大人』」
2013年8月17日—18日
●作・演出＝柴幸男

KAAT(神奈川芸術劇場)プロデュース

『ピノキオ～または白雪姫の悲劇～』
2013年9月14日—15日
●演出・脚色＝宮本亜門



そして、2014年度
アールスペースは
もっともっと冒険します!
[2014年度 主なアールスペース公演]

表現者たちの、まだ形にならないアートを 観客と一緒に育てたい。

5月・6月、連続朗読劇(詳細は8・9ページをご覧ください)

■ Vol.1 5月2日—3日
「劇場へ行こう!」を演出した田尾下哲の
『ペアトリーチェ・チェンチの肖像』

■ Vol.2 6月13日—14日
芸術文化アドバイザー・平田満による
『ヴィヨンの妻』

さらに広がる小劇場演劇の世界

葛河思潮社『背信』

●日程＝10月4日—5日
●作＝ハロルド・ピンター
●演出＝長塚圭史

「父よ!」を作・演出の田村孝裕が 再び豊橋へやってくる。

ONEOR8

『世界は嘘で出来ている』

●日時＝10月16日—18日
●作・演出＝田村孝裕
●出演＝矢部太郎／古屋治男／甲本雅也 他

プロとアマの壁を 超えてアーティストと、 本気の市民が ともに創る表現世界

小曾根真さんは、「やっぱり稽古って、その時間がちゃんと積み重なって本番に出てきますよね」と、「プラットニュース」6号で語っています。それを肌で感じさせてくれたのが、プロとアマがともに創る自主舞踊公演「平山素子ダンスワークショップショーイング」と、宮川彬良 presents 『劇場へ行こう!』です。

企画立ち上げから3年。『ショーイング』では直前2週間は全員が豊橋に滞在して、朝11時から夜10時まで稽古づけの日々となりました。創造活動室Aのガラス窓越しに平山素子さんとワークショップを経たメンバーがもがき、苦しみながら練習する姿を見つけ、思わず足を止めた方も多かったのではないのでしょうか。プロもアマも関係なく投げかける平山さんの「何もなければ、自分で生み出せ」という言葉が稽古の密度を高め、本番の、全身で自己表現するダンサーたちの物語へと結実したのです。

一方の『劇場へ行こう!』では、市民によるPLATオリジナル合唱団が、ワークショップも合わせて約8か月間、アキラ先生と一緒に猛レッスン。まさに三歩進んで二歩下がる状態が長く続きました。そんななか、不安が期待に変わったのは、本番4日前の音楽稽古のとき。みんなの声も動きも表情も、みるみるうちに輝き出したのです。主ホールで上演する以上、「私は素人」なんて言いたくない、ときに道を見失いながらも決して諦めず投げ出さずに全力で取り組んできた日々の蓄積が突然に花開いた瞬間でした。

アキラさんを中心に演出家の田尾下哲さん、照明、舞台監督、空間デザイナーと、さまざまなアーティストと市民で創りあげる作品は、PLATにとっても一つの冒険。一見、同じに見える衣裳も、出演者一人ひとりの個性を読んでの手作りです。小学生から大人まで、それぞれに異なる日常の物語を持つ人々がぶつかりあって生まれる世界。それは、私たちの人生を映しているかに見えました。



『劇場へ行こう!』練習風景

2013年度

『平山素子ダンスワークショップショーイング』

2013年9月28日—29日 アートスペース

- 構成・演出=平山素子
- ゲスト出演=大嶋正樹/竹内 梓
- 出演=WS参加者より選抜された12名/平山素子

『劇場へ行こう!』

2013年12月21日 主ホール

- 音楽監督=宮川彬良 ● 構成・演出=田尾下 哲
 - 合唱指導=近藤恵子
 - 出演=宮川彬良 [語り・ピアノ]
- 森由利子 [ヴァイオリン] / 中村淳二 [フルート]
川出三和子 [チェロ] / 榊原利修 [コントラバス]
平尾裕子 [電子ピアノ] / PLAT合唱団



『平山素子ダンスワークショップショーイング』より

そして、2014年度
さらにスケールアップして、
市民参加型プロジェクトが進行中。

—平田オリザ作による20年前の伝説の舞台に挑む— 高校生と創る 穂の国の『転校生』

● 日程・会場=2014年11月1日—3日 アートスペース
21人の女子高校生のために書いた平田オリザの舞台『転校生』に、PLATと東三河を中心とする女子高校生たちが挑みます。ある高校の教室、いつもと変わらない日常に、突然ひとりの転校生が現れる…。単調な日常に潜む他者との出会い、人間の存在の不確かさが浮かびあがる。キャストはもちろん、スタッフも高校生が関わり作り上げる高校生プロジェクト。

PLATオリジナル演劇を作る 市民と創るスケッチ群像劇 『話しグルマ』

● 日時・会場=2015年3月14日—15日 主ホール
年齢を問わず30名程度の出演者とともに、ワークショップを積み重ねながら演劇を作っていく試みです。どんな話になるかはわからない。この場所で、このために集まったメンバーのみで創り上げる、オリジナル公演。すでに、リサーチのためのワークショップもスタートしています。



とよはしアートフェスティバル『大道芸inとよはし』より

みんなおいでよ、劇場へ。 PLATを砦に アートが街へと溢れ出す。

劇場は、演ずる側と観客が一体となって息づくもの。ならば、まずは観客が日々生活する街を劇場にしてしまおうと、2012年のゴールデンウィークに始まった『とよはしアートフェスティバル 大道芸inとよはし』。PLAT開館1年目の昨年は、逆に、「みんなおいでよ、劇場へ」をコンセプトにPLATを街にしてみました。大道芸プロデューサーの橋本隆雄さん曰く、「最終的には豊橋市全部を占領するぐらいの祭りになっていくとしても、PLATのクオリティ先にありきで、それが外に流れ出していくのが一番だと思うんですよ（『ブラットニュース』4号）。その成果を踏まえて、今年は再び街へと飛び出します。この思い、アートフェスティバルだけに止まりません。演劇や美術などのワークショップ、随時開催している「劇場ツアー」なども同じこと。誰もが表現したい心を持っている。PLATに来るだけでその心が目覚め、身体が動き出す劇場へ。PLATは、これからもチャレンジし続けます。



『ダンボールで生き物を作ろう!』より

2013年度

とよはしアートフェスティバル『大道芸inとよはし』

2013年10月12日—13日

主ホール/アートスペース/北側広場
創造活動室B/創造活動室C

● 出演=17組34名
一度引き込まれたらもう最後、ただの歩行者が観客へ。そして、気づけば投げ銭までしてしまう。2年目の大道芸は劇場を中心に。そして3回目は再び街へ飛び出します。

劇場ツアー

ほぼ毎月1回開催。

主ホールの舞台はもちろん、奈落、音響室から照明室まで普段は行けないところにご案内する劇場ツアー。昨年度は約370名の皆様にご参加いただきました。

柴 幸男 演劇ワークショップ

『いまここで演劇をしてみる』

2013年6月1日—2日 創造活動室A

● 講師=柴 幸男 (劇作家・演出家)

シアターゲームで身体と頭をほぐした後、短い戯曲を作って演じたワークショップ。微妙なニュアンスを伝えるのが難しいけど、でもそれが面白い。



『柴幸男 演劇ワークショップ』より

『ダンボールで生き物を作ろう!』

~ダンボールで大好きな生き物を作ったら大集合~
2013年10月19日—20日 アートスペース

● 講師=玉田多紀 (造形作家)

ダンボールで作られた「生き物」なのに表情はそれぞれ個性があって、どこかカラフルなのが不思議な動物たち。ダンボールを折ったり千切ったり、剥がしたり貼ったり、頭の中のイメージと目の前の形を行ったり来たり、気がつけばみんな夢中の120分でした。

井上加奈子・平田 満 [表現・発見・体験 ワークショップ]

2013年8月23日—25日 創造活動室A

● 講師=井上加奈子/平田 満/坂井宏充

『かぶると頭がグーンと回る君だけ!の面』

2013年8月24日 研修室 (大)

● 講師=山下拓也 (美術家)

そして、2014年度
大道芸はもちろん、演劇、
ダンス、音楽、レクチャー、
ワークショップファシリテーター
養成講座などなど。
質・量ともにパワーアップして
お届け予定。

※各企画の詳細は、決り次第本誌や劇場HPなどでご案内します。

アートスペースは、
もっともっと冒険する。

朗読劇連続公演

観客の想像力を糧に 身体と言葉で伝え、育てる。

5月

『ベアトリーチェ・チェンチの肖像』

どんな辛い状況であれ、
希望は自分で見出すもの。



田尾下
哲

—— 台本は、「この絵は誰？」から始まっています。

田尾下●僕は、この人物のことを絵より先に知っていたんですね。で、フェルメールの『真珠の耳飾りの少女』のモデルになったともいわれる絵を見るうちに、あの振り返った感じとかね、「この人の人生って、ただ暗いだけじゃないな」と思うようになった。実在の人物で、父親殺して斬首刑になるんですが、裁判記録を見ると本当に悲惨な人生を送っています。それでもね、彼女が見出す希望っていうのはあったんじゃないか。どんな辛い状況であれ、希望は自分で見出すものなんだっていう、そこのところは、時代を超えて伝わるものだと、僕は思っています。ただ、最初、2010年頃に集中的に書き始めた頃は、もっと時代を追っていたと思うんですね。1幕を書いてしばらく放っておいたんですけど、あるとき、僕と一緒に演劇を創っている長屋晃一さんに見せたら、絵の作者のガイド・レーニの物語と一緒に創るほうが面白いんじゃないかという話になった。チェンチ一族の物語はたくさん出ていますが、僕たちが描きたいのは史実ではな

いですし。死刑の前日にたった1回彼女に会っただけのガイド・レーニが、その彼女から感じたことを絵に込めたんだと。その発想から始まっているんで、長屋さんの発想を得て、ドラマを創るのは面白いなって、それから、この作品がどんどんできてきた。

身体と言葉で伝えきりたい

—— 田尾下さんが考える舞台化へのステップとしての朗読劇とはなんでしょう。

田尾下●翻訳劇でもないし、評価の定まった作品でもない、まだまったく答がないなかで、まずは、しっかり言葉で劇をドラマとして構成したかったんです。物語をきちんと物語る芝居を書きたいと。そのためには、お客さまに言葉だけで——もちろん、お客さまの想像力もお借りしてですけど、演出的なテクニックと離れて言葉だけで伝えられる、言葉だけで勝負できる作品を作りたいと思っています。ト書きとか、情景を説明的な文章で伝えるんじゃないかって、会話だけで伝える。そうすると、やっぱり話し言葉と書き言葉が違うので、当たり前のことなんですけど、

自分でどんなに朗読してみても、実際に役者が話したら違う言葉っていうのがあるんですよ。その言葉の選び方っていうのに本当に苦労して、何度かやって、物語は変えていないけど、言葉はずいぶん変わっています。本当に身体と言葉で伝える、そういう意味ではもう舞台の台本として成立するようなことを目指していますから。

—— 今回、作曲家の茂野雅道さんと照明家の沢田祐二さんが参加されています。

田尾下●茂野さんは稽古を観に来て、それで音楽を発展させていくんです。基本的にはインストルメンタルなので、言葉ではなく音楽で描写する。だから、より雄弁になると思うし、どんどん進化もしていく。彼とは、これからそういう協働作業が待っていると思います。照明もそうですね。だから、豪華な空間というよりは、言葉と音楽とか照明であたりとか、そういった力で本当に緊密な空間を創りあげていく。あとは、なんといっても役者の存在ですよ。結局ね、人間を際立たせたいんですよ。だから、物を少なくしたいんですよ。

—— この作品は、若い人にもぜひ、観てほしいですね。

田尾下●美術や演劇の関係者とか、演劇が好きなお客さんというだけじゃなくて、本当に、観てほしいと思います。

【聞き手＝芸術文化プロデューサー 中島晴美】



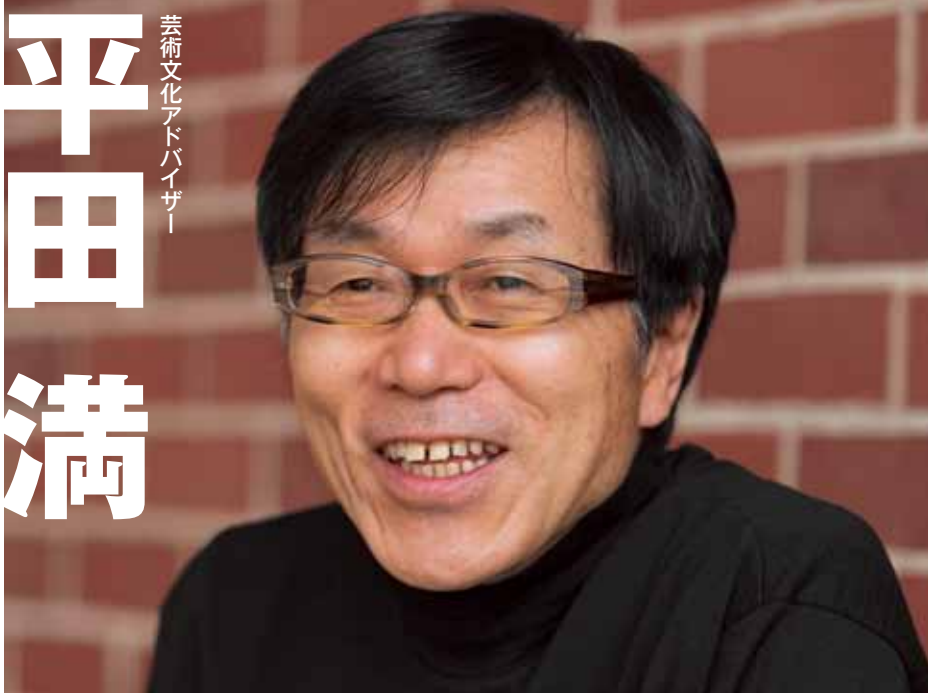
朗読劇連続公演Vol.1 チケット発売中

『ベアトリーチェ・チェンチの肖像』

- 作＝田尾下 哲
- 演出＝田尾下 哲／田丸一宏
- 音楽＝茂野雅道 ● 照明＝沢田祐二
- 修辭・ドラマトウルク＝長屋晃一
- 出演＝AKANE LIV／戸井勝海
安田佑子／前田秀太郎／小林 裕／岸田研二
- 日時＝5月2日 [金] 19:00開演
5月3日 [土] 14:00開演
- 料金＝[全席指定] 一般3,000円
※『ヴィヨンの妻』とのセット券5,000円

昨年、さまざまな実験的な試みをしてきたアートスペース。2期目に挑むのは、表現者たちの、まだ形にならない芸術を客席とともに育てるといった新たな冒険です。その幕開けとなるのが、5月6月と連続して上演する朗読劇。アートスペースは、いわば演劇の育つ「畑」となります。「種」を蒔くのは、昨年末の宮川彬良Presents『劇場へ行こう!』で構成・演出を務めた田尾下哲さんと、PLAT芸術文化アドバイザー・平田満。蒔かれる「種」は、『ベアトリーチェ・チェンチの肖像』と『ヴィヨンの妻』。2人の「種を蒔く人」の心意気をお送りします。

6月 『ヴィヨンの妻』 僕はアートスペースの 可能性の道普請



平田満
芸術文化アドバイザー

いわゆる商業演劇的じゃない芝居をぜひ、僕の地元豊橋でもご覧いただきたい。そう思って、PLATオープン前から『罪』に始まる小劇場演劇を連続上演してきました。それが、想像以上にお客さまがついてくださって。「奇跡だ」と言いたいぐらい嬉しいですね。

アートスペースって、たとえば半分に仕切って100人ぐらいの客席で公演するとか。いろいろなことができるんですよ。その契機となるような、アンテナショップ的な位置も、僕の役割かなと思っています。

今回の朗読劇も、その一つ。海外では、作家がカフェみたいところで新作のリーディング公演をするというのは、けっこう普通にあったりします。日本ではまだ、あまり一般的になっていないんですが、端的に言えば低予算でできますから、いろんな方にアートスペースに立っていただいね。「あ、これ舞台化したいな」とか、あるいは新作を書いた作家が、ここで読んでみることで、「もうちょっと練らなきゃな」とか。もちろん、アマチュアの方が、まずここでやるというのも考えられます。

太宰の文章の向こう側へ

『ヴィヨンの妻』はご存知、太宰の作品です。それで、桜桃忌の6月にした。太宰の小説には朗読して面白いのいろいろあるけれど、役者である僕がひとりでやるからには、やっぱり、太宰が書いた文章の向こう側をちょっとね、仄めかせるみたいな、そういうことができたらいいなと。とくにこれは、会話が多いので本で読むより、目で見て面白い。僕は男ですから、その僕が女性を読むということでも、またちょっと違うものがあると思います。

今回は、音楽も美術もつけません。説明的な音は邪魔になるし、音楽とコラボレートするようなものでもないし。美術も、むしろお客さまの想像力に訴えたほうがいいかなと。ただ、明かりだけはね、夜であったり昼であったり喧噪であったりというのがあって、照明家の相良浩司さんは、そういうのをさりげなく変えるのがお得意なんで、お願いしています。あとは、あの時代の世相、まだ戦後の香りが残っています

よってというイメージだけは、なにか工夫してみたいなと思っています。

こういうライブの演劇ってというのは可能性だけは滅茶苦茶あって、音楽入れるのも映像入れるのもアリだし、なんていうのかな、ものすごいパフォーマンスだってできる。やっぱり新しいものっていうのは、常識やら型やらに慣れてしまうんじゃないって、いろいろな想像力、創造力、そして冒険心から生まれるんだと思います。そう考えてみると、僕の役割はアンテナショップというより道普請かもしれないですね。(談)



チケット発売中

朗読劇連続公演Vol.2

『ヴィヨンの妻』

- 作＝太宰 治
- 構成・演出・出演＝平田 満
- 日時＝6月13日 [金] 19:00開演
6月14日 [土] 14:00開演
- 料金＝[全席指定] 一般3,000円

※『ベアトリーチェ・チェンチの肖像』とのセット券5,000円

at

タイムテーブル&出演者情報は、WEB&チラシでチェック! チラシはPLATおよび市内公共施設等で配布中
<http://toyohashi-at.jp>

美しいのは
空かあなたか...

高さ11.5mのポールの上で、フラフープとともに、しなり、舞う姿は圧倒的な美しさ。世界を代表するサーカスアーティストによる大掛かりなビッグスペクタクル!
 会場: 1 穂の国とよはし芸術劇場

SPECIAL GUEST
Julot [ジュロ]
 ジャンル: エアリアルポール
今年の目玉はこれ!

とよはしアートフェスティバル 2014 大道芸 in とよはし

5/4日
12:00▶20:00

5/5月・祝
12:00▶18:30

入場無料

超絶びっくり、
笑いと涙、
大道芸のすべてが
ここにある!



世界で活躍中の17組30名
の大道芸人が豊橋の街を舞台に大暴れ!!
今年、とよはしまちなか歩行者天国やJRF豊橋駅前駐車場「駐太郎まつり」と同時開催。

イタリアに始まった、地面に名画を描くパフォーマンス。フィレツェで修行をし、現地で高い評価を得た、実力派チョークアーティスト松本かなこが登場。そして、もう一人。スプレーペイントの第一人者アートパフォーマー☆ファイターが、音楽にのせてキャンバスに鮮やかな軌跡を描き出す。
 会場: 4 豊橋駅前地下通路



- 1 穂の国とよはし 芸術劇場PLAT
- 2 PLAT北側ロータリー
- 3 豊橋駅南口駅前広場
- 4 豊橋駅前地下通路
- 5 広小路一丁目
[HIS豊橋支店前]5/4のみ
 雨天の場合は、プラット館内に演技エリアを変更します。

豊橋駅前地下通路が
美術館に変貌する。

竹内直&ワガンブラザーズ
スペシャルジャズライブ

ジャズは、
ジャズである前に音楽
まるごとの存在で
響き合いたい

サクソ奏者 竹内直

サクソ奏者の竹内直さんが初めて大道芸のフェスティバルに参加したのは2006年。以来、ワガン・ジャエ・ローズさん率いるアフリカンパーカッションとのセッションで街の人々を湧かせてきた。豊橋では、第1回アートフェスティバルに参加。今年は主ホールでも熱い演奏を聴かせてくれる。

大道芸との出会いは、本当に偶然なんですけど、プロデューサーの橋本隆雄さんが、僕のライブに来てくださったのがきっかけです。以来、何度も聴いてくださって、「大道芸に出てみないか」というお話をいただいた。それで、都内のヘブンアーティストのイベントを見に行き、「ぜひ、お願いします」。それ以前から、僕には、ジャズというものがジャズファンだけの世界で完結しているような、ちょっと窮屈な感じがあった。でも、本来は、ジャズ以前に音楽な

進むサクソの響きと、熱いジャンベのリズムがあなたの心も体もとろかせる。

竹内直のサクソ、ワガンブラザーズのトリオパーカッションにベースとピアノを加えたスペシャルユニットが豊橋に参上。音楽にジャンルも国境も「正解」もない!と身体で感じる強烈なサウンドに、思い切り自由に酔いしれてください。

んじゃないか。ジャズにまったく興味が無い方にも届く、そんな、音楽としての力を試したいとずっと思ってきていたんで、大道芸はもう、願ったり叶ったりでした。橋本さんのおっしゃることもそれと似ていて、世の中が効率や利益ベースで、こう、マニュアル化の方向にどんどん進んでいっている、表現活動も同じ流れがあるなかで全体性というか、精神や肉体まるごとの存在みたいなものを取り戻そうということかと。僕の勝手な理解ですけど。

もともと僕がジャズを始めたのは、コルトレーンという人の音楽に感動したからで、その「感動」はなかなか言葉にできないんですけど、やっぱり全体性ってことだったかなという気もしています。ジャズのすごいところって、まあ、毎回実現するわけじゃないですけど、奏者が即興でそれぞれの存在を出しきって、それが自然発生的に調和する。人間関係の理想というか。そして、聴く人の身体が自然に動きだしたりするのも、無意識とか魂とかにまで染み透るからじゃないか。

● アフリカには、ブラック ● コーヒーとしての音楽があった

ワガンさんと大道芸と一緒に演奏するようになって2年目かな。2008年の初めに彼の故郷・セネガルに行ったんですよ。歴史を辿ると、アフリカから「奴隷」ということで、彼らが彼らの音楽を運んで、ジャズになったりサンバになったりしていった。つまり音楽の原点で、コーヒーでいえばブラックコーヒー。それを味わって、今までのコーヒーにはミルクが入っていて、僕は

ミルク入りのコーヒー、言葉を換えればアメリカとの関係しかなかったんだと。おおもとのコーヒーを味わって、関係ができて、じゃあ、ミルクって僕にとってなんなの、とか、そういう問いが湧いてきた。

アフリカは身体が気持ちよく動く、リズムに反応したり同調したり、いわば身体性のもすごく強い文化で、そこは、やっぱりさっきの全体性とつながっている。僕はジャズ全肯定で、若い頃にはアメリカに行ってアメリカ人のように吹きたいって思っていたんですけど、アフリカ人とつきあって、ジャズのなかの、自分にとって好きなもの嫌いなものとか、なにかちょっとジャズを客観的に見る感覚が芽ばえましたね。

今度の豊橋のアートフェスティバルは、ホールと外の広場と、両方で演奏させていただきます。ホールは、たくさんの方が集中して聴いてくださる充実感がありますし、一方の外の広場は、ほんの2分でも自分たちが気を切らせたらお客様は去っていく緊張感がある。それこそ、ジャズ以前に音楽としての力が試される、僕にはとても大事なチャンスです。(談)

[たけうち・なお] 1977年、1986年と2度にわたって渡米。ニューヨークでパイヤー・ランカスター・as・スティーブ・グロスマン・tsに師事。デニス・チャールズ・ds、ウィリアム・パーカー・b、クラレンス・C・シャープ・as エレン・クリスティヴォらと共演。Jazz Center of New Yorkに自己のバンドで出演。帰国後、エルビン・ジョーンズ・ds・ジャパニーズ・ジャズ・マシーンに参加。1994年頃よりテナー・サクソ(のちにバス・クラリネット、フルート)による無伴奏ソロ演奏をはじめ。2002年には、山下洋輔ユニットでヨーロッパでツアー公演を行う。最新のリーダーアルバムに「セラフィナイトアットモーションブルーヨコハマ」。

5月4日[日] 19:00~

● 会場=穂の国とよはし芸術劇場PLAT主ホール

● 入場料=無料(要整理券)

整理券はプラット1階窓口にて配布中。

大道芸と同時開催

現実とファンタジーの
狭間で何を見る?

カナダからやってきた、
劇団コープス
「ひつじ」

現実とファンタジーが出会う、ユニークなライブパフォーマンス。PLATの目の前で田舎のひつじ牧場を再現。コープスが鋭く観察したひつじの特性が、みなさんを不思議な世界へお招きします。
会場 穂の国とよはし芸術劇場
PLAT北側ロータリー

[劇団コープス] 1997年創立。2001年、カナダフランス文化センターのthe IV Games of la Francophonie (ストリートパフォーマンス部門)で金賞を受賞、翌年にはPrix Hommage for Arts賞を受賞。



5/2 FRI — 5/3 SAT

好評発売中

朗読劇連続公演Vol.1

『ベアトリーチェ・チェンチの肖像』

フェルメールの世界的名画『真珠の耳飾りの少女』のモデルとなったとも言われている、ガイド・レーニ作『ベアトリーチェ・チェンチの肖像』。この一枚の肖像をめぐる二つの歴史と物語が織り成す戯曲を、朗読劇としてお届けします。

- 作＝田尾下 哲 ●演出＝田尾下 哲／田丸一宏
- 音楽＝茂野雅道 ●照明＝沢田祐二
- 修辞・ドラマツルク＝長屋晃一 ●出演＝AKANE LIV
戸井勝海／安田佑子／前田秀太郎／小林 裕／岸田研二
- 日時＝5月2日〔金〕19:00開演／3日〔土〕14:00開演
- 会場＝PLATアールスペース
- 料金＝〔全席指定〕一般:3,000円 ※『ヴィヨンの妻』とのセット券5,000円

5/4 SUN — 5/5 MON

とよはしアートフェス2014『大道芸 in とよはし』

みんなが集まれば、そこが劇場に大変身! 心躍るルネッサンスな2日間! 世界で活躍中の17組30名の大道芸人が豊橋の街を舞台に大暴れ。また同時に劇団コープスの『ひつじ』を開催します。

- 日時＝5月4日〔日〕／5日〔月・祝〕
- 会場＝穂の国とよはし芸術劇場PLAT
豊橋駅南口駅前広場／豊橋駅前地下通路／広小路通り ※4日のみ
- 料金＝入場無料 ●同時開催＝劇団コープス『ひつじ』

同時開催: 劇団コープス『ひつじ』 世界26カ国1000回以上の公演回数をほこる人気パフォーマンス『ひつじ』がついに豊橋にやってくる。人間がひつじに扮し、羊飼いに追われ逃げ惑ったり、じゃれ合ったり、時には観客を巻き込んだりのパフォーマンスにご期待ください。



©Gary Mulcahey

Julot

6/13 FRI — 6/14 SAT

好評発売中

朗読劇連続公演Vol.2 『ヴィヨンの妻』

『父よ!』『失望のむこうがわ』と常にPLATアールスペースの可能性を提示してきた芸術文化アドバイザー・平田満。映画ともなった太宰治晩年の名作『ヴィヨンの妻』に、たった一人で挑みます。

- 作＝太宰 治 ●構成・演出・出演＝平田 満
- 日時＝6月13日〔金〕19:00開演／14日〔土〕14:00開演
- 会場＝PLATアールスペース
- 料金＝〔全席指定〕一般:3,000円

※『ベアトリーチェ・チェンチの肖像』とのセット券5,000円

6/28 SAT — 6/29 SUN

PICK UP!

『THE BIG FELLAH ビッグ・フェラー』

好評発売中

残席僅か

いまロンドン演劇界で最も注目を集める人気劇作家リチャード・ピン。“Work Play”という労働者を扱った芝居を得意とする彼が、IRA (アイルランド共和軍)の生きざまを躍動感あふれる台詞とミス터리アスなストーリー展開で描いた注目作。今年の読売演劇大賞で大賞・最優秀演出家賞を受賞した演出家・森新太郎による演出と内野聖陽をはじめとする魅力的な俳優陣でお贈りします。



内野聖陽

- 作＝リチャード・ピン ●翻訳＝小田島恒志 ●演出＝森新太郎
- 出演＝内野聖陽／浦井健治／成河／明星真由美
町田マリー／黒田大輔／小林勝也
- 日時＝6月28日〔土〕14:00開演／29日〔日〕14:00開演
- 会場＝PLAT主ホール
- 料金＝〔全席指定〕S席:7,500円
1階バルコニー席:6,500円／A席:5,000円

IRAという題材は、日本にいる我々からは少し遠い世界かもしれませんが、でも、世界で今何が起きているのか、登場人物たちのそれぞれ異なる考え方を通して、個人に何ができるのかを改めて問い直させてくれる作品です。



森新太郎

【もり・しんたろう】東京都出身。演出家。演劇集団円。会員。2006年、マーティン・マクドナー作『ロンサム・ウェスト』で本公演の演出デビュー。平成20年度毎日芸術賞演劇部門千田是也賞を受賞。さらに2009年、マーティン・マクドナー作『コネマラの骸骨』の演出で平成21年度文化庁芸術祭賞優秀賞を受賞。2011年には新国立劇場主催『コードを待ちながら』、世田谷パブリックシアター主催『生命を詠うー日本の現代詩からー』、2012年2月には水戸芸術館で『夏の夜の夢』、12月には世田谷パブリックシアターで『ハーベスト』(作:リチャード・ピン)を演出。2013年6月サルトル作『汚れた手』(劇団昂)、10月マロウ作『エドワード二世』(新国立劇場)を演出し、各誌で絶賛される。両作品で本年2014年2月に発表された第21回読売演劇大賞にて、大賞および最優秀演出家賞を受賞。2014年は5月からの『ビッグ・フェラー』の前に、3月に『幽霊』(作:イブセン)の演出も控えている。

7/12 SAT — 7/13 SUN

会員先行＝5月10日〔土〕 一般発売＝5月17日〔土〕

KUNIO11 『ハムレット』

京都を拠点に活動している演出家、舞台美術家・杉原邦生。2013年より継続してワークショップを重ね、約一年間のクリエーション期間を経て、シェイクスピア四大悲劇の『ハムレット』を、メインキャスト+ワークショップオーディションの選抜キャストで上演いたします。

- 作＝W・シェイクスピア ●翻訳＝桑山智成 ●演出・美術＝杉原邦生
- 出演＝内田淳子／箱田暁史〔てがみ座〕／福原 冠
熊川ふみ〔範宙遊泳〕ほか
- 日時＝7月12日〔土〕14:00開演／13日〔日〕14:00開演
- 会場＝PLATアールスペース ●料金＝〔全席指定〕一般:3,000円

チケットの購入・お問合せは

プラットチケットセンター [会員先行・一般発売]

- Web = <http://toyohashi-at.jp>
ホームページから24時間いつでも予約可能です。
※プラットフレンズへの登録が必要です。
- Tel = 0532 (39) 3090
- 窓口 = 穂の国とよはし芸術劇場 1F
Tickets & Informationカウンター
受付時間 [Tel・窓口] 10:00~19:00 (休館日をのぞく)

U24・高校生以下 割引のご案内

- 若い人にこそ生の舞台を楽しんでもらいたいから、ほぼすべての豊橋文化振興財団主催公演に割引料金を設定しています。
- 料金 = U24 [24歳以下対象]: 公演ごとに指定する席種の半額
高校生以下: 一律 1,000円
 - 購入方法 = 各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。
※一部公演により発売開始日や発売方法が異なります。
 - その他 = 本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。
座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。

7/19 SAT

PICK UP!

会員先行 = 4月26日 [土] 一般発売 = 5月3日 [土]

ママ、ヴァイオリン上手『戸田弥生リサイタル』

- 出演 = 戸田弥生 [ヴァイオリン] / 林 達也 [ピアノ]
- 日時 = 7月19日 [土] 14:00開演 ● 会場 = PLATアールスペース
- 料金 = [全席指定] 一般: 3,000円 / 子ども: 500円 [4歳以上小学生以下]

PLATアールスペース初の演奏会は、エリーザベト王妃国際音楽コンクール優勝という日本人史上2人目の快拳を達成した戸田弥生さんのリサイタルを2部構成でお贈りします。

1部は、今や国内外を問わず活躍中のヴァイオリニストであり、また二児の母でもある戸田弥生さんによる極上の演奏、2部では中島芸術文化プロデューサーとのトークを開催。盛りだくさんのコンサートをお楽しみください。



[とだ・やよい] 1993年エリーザベト王妃国際音楽コンクールで優勝を飾り、ヨーロッパ各地で本格的な活動を開始。97年ニューヨーク・デビューで絶賛される。録音も数多く、「ハッハ、無伴奏ソナタ&バルティータ全曲」「イザイ無伴奏ヴァイオリン・ソナタ全曲」のほか、2006年に珠玉の小品集「子供の夢」を、2010年には「20世紀無伴奏ヴァイオリン作品集」をリリースし、無伴奏作品の潮流を描く演奏で好評を得ている。デビュー 20周年を迎えた2013年には、東京、大阪、神戸、福井にて、協奏曲、デュオ、無伴奏等多くの舞台上で大好評を博した。公式ホームページ<http://yayoi-toda.com/>

7/20 SUN

会員先行 = 4月12日 [土] 一般発売 = 4月19日 [土]

松竹大歌舞伎

『中村歌昇 改め 三代目中村又五郎襲名披露
中村種太郎 改め 四代目中村歌昇襲名披露』

- 出演 = 中村吉右衛門 / 中村又五郎 / 中村歌昇 (ほか)
- 日時 = 7月20日 [日] 12:30開演・17:00開演
- 会場 = PLAT主ホール
- 料金 = [全席指定] S席: 10,000円 / A席: 7,000円
B席: 5,000円

8/3 SUN

会員先行 = 5月24日 [土] 一般発売 = 5月31日 [土]

こどもとおとなのためのダンスプログラム

コンドルズ 『ガリバー旅行記 (仮)』

夏休みにコンドルズがお届けする作品のテーマは“こどもも楽しい大人劇”。童話の朗読、クイズやゲーム等「飽きさせない」工夫が随所にちりばめられた、子どもも大人も一緒に楽しめる作品をお見逃しなく。

- 構成・映像・振付・出演 = 近藤良平 ● 出演 = コンドルズ
- 日時 = 8月3日 [日] 14:00開演 ● 会場 = PLAT主ホール
- 料金 = [全席指定] 一般: 4,000円

8/16 SAT — 8/17 SUN

会員先行 = 6月21日 [土] 一般発売 = 6月28日 [土]

こどもとおとなのためのお芝居

『暗いところからやってくる』

第19回読売演劇大賞を受賞した、劇作家・演出家の前川知大 (劇団イキウメ主宰) と、第16回千田是也賞を受賞した気鋭の演出家・小川絵梨子による、“こどもとおとなのためのお芝居”『暗いところからやってくる』を上演します。

- 作 = 前川知大 ● 演出 = 小川絵梨子
- 日時 = 8月16日 [土] 11:00開演・15:00開演
17日 [日] 11:00開演・15:00開演
- 会場 = PLAT主ホール ステージ・オン・ステージ
- 料金 = 大人: 3,000円 / 小学生: 500円

8/24 SUN — 8/25 MON

会員先行 = 6月7日 [土] 一般発売 = 6月14日 [土]

PICK UP!

ミュージカル『王様と私』

豊橋市出身で俳優の松平健がついにPLAT初登場。心はずむ名曲『シャル・ウィ・ダンス』の音にのせて、心打つドラマ、華麗なダンスなど見どころたっぷりのミュージカルをお贈りいたします。

- 作曲 = リチャード・ロジャース
- 作 = オスカー・ハマースタインII ● 演出 = 山田和也
- 出演 = 松平 健 / 紫吹 淳 / はいだしょうこ (ほか)
- 日時 = 8月24日 [日] 12:00開演・17:00開演
25日 [月] 13:00開演
- 会場 = PLAT主ホール ● 料金 = 一般: 3,500円



不朽の名作『王様と私』

マーガレット・ランドンが1944年に発表した小説『Anna and the King of Siam』を原作として、1951年に初演されたミュージカル作品。舞台は1860年代のバンコク。王室の家庭教師として雇われたイギリス人女性アンナは王室に文明の息吹を吹き込もうとするが、しきたりを重んじる頑固なシャムの王様と対立してしまう。二人は衝突を重ねながらも交流を深めてゆき、やがて愛し合うように…。世界中で大ヒットした周防正行監督の邦画『Shall We ダンス?』(96)で効果的に使われていた名曲「シャル・ウィ・ダンス」でおなじみの、親しみやすい歌、豪華なセットと衣装、俳優達の素晴らしい演技など、見所満載の傑作ミュージカルをお見逃しなく。

あなたが育てる、 グロトリアンの音色



木の温もりが感じられるPLAT創造活動室Aが毎月一回、あなただけのコンサートホールに変身します。それが、一時間単位でピアノをお貸しする『グロトリアンを弾いてみよう』。「グロトリアンって何?」という方も、きっといるはず。そういう方にもぜひグロトリアンを体験していただきたい、そして、一緒に音色を育ててほしい。開館以来、そんな願いを込めて続けています。

グロトリアンは 生まれたばかりの“赤ちゃん”

はるばるドイツから、PLAT開館に合わせてやってきた新品のグロトリアンピアノ。このピアノに誰よりも詳しいのが、毎月の定期点検を担当するオリエント楽器の調律師・山口宏

治さんです。「品質、音色、価格のバランスは世界一とも言われるグロトリアンは、一般的にアップライトピアノが有名で、こういう大きなフルコンサートピアノは少ないんです。ですから、市民の皆さんにどんどん体験してほしい」と、話します。

しかも、私たちのグロトリアンは、いわば、生まれたての赤ちゃん。その響きはここPLATで成長していくといつてよいでしょう。「今は変にしつけをしてしまうより、いろんな方に弾いてもらいやすいようにタッチを軽くして、遊ばせている状態です。もっと弾きこんで、叩きこんでほしいですね」と、山口さん。実際、参加者からのアンケートでも「タッチが軽くて、とても弾きやすい」「これなら子供のピアノ発表会にも使いやすい」などの感想をいただいています。



その音色、 たとえるならば“藤の花”

PLATには、もう一つ、スタインウェイピアノがあります。「花にたとえるなら、アマリリスやひまわりのような輪郭のハッキリした大きな花がスタインウェイ。対するグロトリアンは藤の花。しっとりした、しとやかな音色が魅力です。だから、力まないで、藤のような奥ゆかしさをイメージして弾いてくれれば、いい感じに演奏できると思う」と、山口さんは話します。どことなく私たち日本人に重なる印象がありますね。

「そう、日本人に似ていると思う。藤の花ではあるけれど、それでいて明るいから陰と陽が両方出せる。琴にも合うと思うし、例えば弦楽五重奏ならものすごく上手く溶け込む。ヴァイオリンやチェロ、歌との相性は抜群。そこはスタインウェイにはない魅力ですね。心地良さのグロトリアン、パワーのスタインウェイというところかな」。

とはいえ、1年や2年では音は育ちません。これからも、より多くの市民の方々、そしてプロの奏者に演奏してもらうことでいい響きへとどんどん育っていくとのこと。これもまた、「ともに創る」PLATだからできること、と言えそうです。

4月27日受付開始

グロトリアンを弾いてみよう!

- 日時=5月15日[木] 10:00—21:00
5月16日[金] 10:00—21:00
 - 会場=PLAT創造活動室A
 - 参加料=1時間あたり1,000円
 - 対象=ピアノが演奏できる方。
 - 募集人数=毎時00分から1時間単位で最大2時間まで。
 - 申込方法=プラットチケットセンター
電話のみ TEL: 0532 (39) 3090
- ※今後も随時開催してまいります。
日程等は本誌や劇場HPなどでご案内いたします。

グロトリアン地域特約店 白羽楽器株式会社

浜松市中区領家1-6-10
☎ 053-464-3015
www.pianos-shirowa.co.jp

芸術文化アドバイザー

第5回

平田 満のちよこっとエッセイ

「PLAT一周年」



穂の国とよはし芸術劇場PLATが開館して一周年になります。もう一年とも、まだ一年?とも思える、あわただしいながらも充実した一年でした。

設計段階から建設着工、オープニング、柿落し公演にもかわかり、来るたびにいい雰囲気になってきたと思っていましたが、今年二度目の公演『失望のむこうがわ』をアートスペースでした時には、すでに何年も年を重ねた劇場のように、PLAT全体が人の体温で温められた、すぐれた創造空間に成長しているの

に驚きました。何人もの演劇関係者からもいい勝手のいい、とてもやりやすい劇場だどのお墨付きをいただいています。

それは、お客様の熱と感動から生まれたものでしょうし、劇場を使ったアーティストの意気込みや才能によるものなのでしょう。そして、縁の下の力持ちともいえる、劇場スタッフの皆さんの誇りとよろこびがそういう空間にしたのだと思います。

これからもより多くの人を利用し、楽しめるPLATになってほしいと期待しています。

<p>〒440-0862 愛知県豊橋市西小田原町123番地の九 http://www.shirai-qa.com 電話 0532-5712630</p>	<p>本 豊川堂 カルミア 店 五四一六八八番 アピタ 店 五五二八一〇番 ピタ 店 五四一六三五一番</p>	<p>代表取締役 竹尾 誠 株式会社 竹尾建築設計事務所 豊橋事務所 / 豊橋市平川南町91-2 〒440-0035 Phone: 0532-62-1332 (代) Fax: 0532-62-1332 浜松事務所 / 浜松市東区流通元町13 〒453-0007 Phone: 053-422-3628 (代)</p>	<p>伊藤 藤 外科・内科・胃腸科・麻酔科・消化器科・呼吸器科 伊藤 藤 伊藤 藤 伊藤 藤 伊藤 藤 豊橋市小池町字原下三十五 電話四五二八三番代</p>	<p>看板広告 アラキスタヂオ 豊橋市上伝馬町十六 電話 @ 五五八六番</p>	<p>医療法人 豊会 大島整形外科クリニック 理事長 大島 照夫 院長 大島 敬 東田町井原三九の七(市電赤坂口駅前) 電話六二二二〇五番 電話六二二二〇五番</p>	<p>医療法人 豊会 赤岩 病 院 電話六二二二〇五番</p>	<p>YMバレエ カンパニー ハロートウ 21 8610 電話六二二二〇五番</p>	<p>有限会社 魚 伊 電話 52-5256</p>	<p>本と文具なら 精文館書店 TEL.54-2345</p>
---	--	---	--	---	---	---	---	---	--

竹内産婦人科
 産婦人科
 婦人科(不妊治療)
 豊橋市新本町23
 豊橋 竹内産婦人科 検索Q

氷各種販売 / 冷蔵倉庫業
大正冷蔵
 本社 豊橋市湊町117
 TEL: 0532-52-1161
 FAX: 0532-52-8015

山本製粉株式会社
ホンポッ
 ラーメン
 なつかしの味
 つくしの味

写楽集団・クラブ
KAIHO
 KOTARO 海渡
 NORI-G 財務
 GUCCHI 環境
 TAKEDA 広報
 DAIGOLAW 海渡
 NOBU 倫理
 MATSUO 警備
 photo

株式会社 谷山建築設計事務所
 豊橋市西羽田町一八三
<http://taniyama-archi.com>

豊橋調理製菓専門学校
 調理と製菓のおいしい資格。
 豊橋市八町通一丁目五十二
 TEL 五三二八〇九

グロトリアンピアノ地域特約店
白羽楽器株式会社
 電話 0531-46413015

ONOCOM
株式会社オノコム

三河の滋味
 創業明治七年
つくだ煮
 塩之谷 塩之谷 塩之谷

SUBARU
スバル東愛知販売(株)
 壺屋弁当部 TEL: 0532-31-1133

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科
医療法人 大岩整形外科・皮フ科
 院長 大岩 俊久
 豊橋市大岩通二丁目二五
 電話 五五二一〇〇

創業文政年間
 美飯 日築
きく宗
 豊橋市新本町40
 電話52-5473番

天之美祿
なりの花でん
 ニフフロント ホテルアクリッシュエー

豊橋名産
みちあわ

気まぐれコンサート
 事務局 / 0532-62-9259 (小川恵司)

am.10:00~pm.5:00
るる
 茶屋
 甘味処 抹茶・コーヒー
 あんみつ・豆かんてん
 中岩田5丁目6の4 TEL.63-0202

共和印刷株式会社
 プラスワンの付加価値をお客様に提供いたします。
 豊橋市小池町36番地の1
 TEL 461132881
 FAX 461132885

伝統的工芸品豊橋華
 書道用品専門店
高誠堂
 豊橋市呉服町四拾四番地
 電話 五二一五五一四

チケット購入案内
 ◆プラットチケットセンター [会員先行・一般発売]
 Web=<http://toyohashi-at.jp> ※プラットフレンズへの登録が必要です。
 Tel=0532(39)3090
 受付時間 [Tel・窓口]
 10:00~19:00 (休館日をのぞく)
 窓口=穂の国とよはし芸術劇場1F
 Tickets & Information カウンター
 ◆その他 [一般発売・公演によって販売所は異なります]
 チケットぴあ / カルミア2Fサービスセンター
 ほの国百貨店6Fプレイガイド など

プラットフォーム募集中 [入会金・年会費無料]

お得な3つの特典
 特典1 公演情報をメールでご案内します。
 特典2 インターネットでチケット予約ができます。
 特典3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。

登録方法
 ●WEBで登録 [穂の国とよはし芸術劇場HP]
<http://toyohashi-at.jp>
 ●携帯で登録 <https://piagettii.e-get.jp/online-ticket/de/>
 ●窓口で登録
 穂の国とよはし芸術劇場 Tickets & Information カウンター

QRコード

チケット購入案内
 ◆プラットチケットセンター [会員先行・一般発売]
 Web=<http://toyohashi-at.jp> ※プラットフレンズへの登録が必要です。
 Tel=0532(39)3090
 受付時間 [Tel・窓口]
 10:00~19:00 (休館日をのぞく)
 窓口=穂の国とよはし芸術劇場1F
 Tickets & Information カウンター
 ◆その他 [一般発売・公演によって販売所は異なります]
 チケットぴあ / カルミア2Fサービスセンター
 ほの国百貨店6Fプレイガイド など

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT
 〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
 Tel=0532(39)8810 [代表] <http://toyohashi-at.jp>
 開館時間=9:00~22:00 休館日=第三月曜・祝日の場合は翌日・年末年始。
 豊橋駅 (JR東海道新幹線・東海道本線・名古屋鉄道)、新豊橋駅 (豊橋鉄道渥美線) 直結。豊橋駅南口から徒歩3分。 ※駐車場はありません。公共交通機関、お近くの公共駐車場等をご利用下さい。

PLAT CALENDAR

5 MAY

- 2 FRI - 3 SAT 朗読劇連続公演Vol.1『ペアトリーチェ・チェンチの肖像』 PLATアートスペース
- 4 SUN - 5 MON とよはしアートフェスティバル2014『大道芸 in とよはし』 PLATなど
- 4 SUN 斎竹恭子バレエスタジオ第23回発表会 フロイデンホール
茶道クラブ月例茶会[宗偏流豊橋支部] 三の丸会館
- 10 SAT 時習館16回生卒業50周年記念事業実行委員会『我が青春のコンサート』 ライフポートとよはし
- 11 SUN 清歌会 日本舞踊西川流発表会 PLAT主ホール
ピティナ・ピアノステップ豊橋春季地区 PLATアートスペース
第44回長唄演奏会 豊橋市民文化会館
- 13 TUE - 18 SUN 玉祐会水墨画展 豊橋市美術博物館
- 14 WED 桂文我 独演会 PLATアートスペース
- 17 SAT ESDユネスコ世界会議半年前イベント(三河地区) PLATアートスペース 他
第4回コーロ・フェリーチェ演奏会 豊橋市民文化会館
- 24 SAT 梅原司平コンサート PLATアートスペース
- 25 SUN 豊橋ホスピスを考える会20周年記念行事『フクシマ、地域医療、いのち』 PLATアートスペース
- 27 TUE - 6/1 SUN 朋友会篆刻作品展 豊橋美術博物館
第42回写真100展 豊橋市民文化会館
- 29 THU “天心の譜”上映会 & 細川佳代子氏講演会 PLAT主ホール
- 30 FRI 第721回邦楽鑑賞会 豊橋市民文化会館

6 JUNE

- 1 SUN 第36回不朽流吟詠コンクール PLATアートスペース
茶道クラブ月例茶会[表千家豊水会] 三の丸会館
- 3 TUE - 5 THU 演劇鑑賞会第242回例会 劇団東演『ハムレット』 PLAT主ホール
- 6 FRI 第722回邦楽鑑賞会 豊橋市民文化会館
- 8 SUN いけばな池坊巡回講座—Ikenobo2014—『品質』—池坊いけばなの魅力に迫る— PLAT主ホール
市川いずみ シャンソンコンサート「Comment ça va? (コマンサヴァ)」ご機嫌いかが? PLATアートスペース
男声合唱団ふんげんクラブ第5回不定期演奏会 豊川市小坂井文化会館
- 13 FRI - 14 SAT 朗読劇連続公演Vol.2『ヴィヨンの妻』 PLATアートスペース
- 15 SUN 古橋アカデミア FLORES花10 PLATアートスペース
天才ウクレレプレイヤー新納悠記の新たなる挑戦 PLAT主ホール
TFM合唱団第26回演奏会 ライフポートとよはし
- 20 FRI Gospel Night in Toyohashi (ゴスペルコンサート&メッセージ) PLATアートスペース
- 22 SUN ヤングアメリカンズ・ジャパントア 2014夏 in 豊橋 PLAT主ホール
アコーディオンクラブECHO 第32回アコーディオンコンサート PLATアートスペース
第8回世界の子どもたちへ教育・医療支援イベント ライフポートとよはし
- 24 TUE - 29 SUN 硬筆書芸展 豊橋市民文化会館
- 28 SAT - 29 SUN 『THE BIG FELLAH ビッグ・フェラー』 PLAT主ホール

企画・発行＝公益財団法人豊橋文化振興財団

編集＝森 絹江

デザイン＝松吉太郎デザイン事務所

写真[表紙]＝谷古宇正彦

平成26年4月 発行7号 [隔月発行]

穂の国とよはし芸術劇場

TOYOHASHI ARTS THEATRE
〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
Tel 0532(39)8810[代表] <http://toyohashi-at.jp>